

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 国語科〉

<p>1. 「分かる」から「できる」を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和6年度村学力調査から、全国平均を下回る結果であった。特に「書くこと」の領域では、全国平均よりも-27%と大きく下回った。また、「話すこと・聞くこと」は全国平均から-12.3%下回っていた。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">日頃から辞書を引かせる習慣を身に付けさせる。時間をかけて漢字学習の徹底を図る。自分の考えを説明したり書いたりする機会をさらに増やす。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">作文指導を定期的に設け、書く機会を増やす。漢字のミニテストや再テストを定期的実施して、定着を図る。学習の感想や自分の意見などを交流して、質疑する機会を設ける。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">作文指導を定期的に設け、書く機会を増やすと共に、作文内に漢字を使う文字数を設定し、漢字の活用能力を伸ばす。漢字のミニテストや再テストを定期的実施して、定着を図る。多様なジャンルの読書にチャレンジさせ、読みの幅を広げる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①漢字ドリルを用いた筆順や字形の指導、月に2回程度の漢字10問テストを実施する。学期に2回の50問テストでは100点をゴールにした再テストを繰り返し実施する。毎週作文による、作文指導及び漢字の活用を図る。</p> <p>②考えや意見を交流・質疑する話し合いの場を設定する。全校朝会における講話内容の要約カードに取り組む。</p>	<p><検証方法></p> <p>①漢字ドリルやテストの進捗や達成状況を学期ごとに検証し、70点以上を目指す。毎週作文の記録を学期ごとに検証し、漢字使用数50文字以上を目指す。</p> <p>②ノート記録や話し合いの様子、全校朝会要約カードの記録を通年実施・検証し、要約して書ける児童7割を目指す。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和6年度村学力調査から、領域全般で全国平均を-19.4%と大きく下回っていた。特に「都道府県の様子」で-21.3%、「伝統と文化、先人の働き」で-22.4%下回っている。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">地図帳や教科書の活用の機会を設ける。ノートやICT機器の活用方法を提示する。自分で調べまとめ解決する学習方法の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">単元の学習計画の見直しをもたせ、学び方を理解させるために、ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示したり操作したりさせる。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">日本の国土の様子については、地図帳などの資料を活用しながら特徴を発見・解決する実践を行う。地域ごとのくらしや産業の様子については、ICT機器を使って現地の課題や特徴を調べ、工夫や努力について問題解決する実践を取り入れる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①ICT機器を使い、スライドを作成し授業の中で活用する。またクラスルームに資料を載せて、読み取る学習を進める。②くらしや産業の学習では、現地の努力や工夫に気付かせ、どのような成果と課題があるのか考えさせながら学習を進める。③スキルタイムを使って、国土の様子や特徴などを調べて白地図に記入させることで、既習の学習内容を復習する時間を確保する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①ノートなどの学習記録の進捗や達成状況を通年検証し、適切に予想やまとめが書ける児童7割を目指す。②ノートなどの学習記録や発言の状況を通年検証し、適切に記録した発言したりできる児童7割を目指す。③プリントや白地図などの進捗や達成状況を単元の節目や学期末に実施・検証し、理解度7割を目指す。
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、すべての領域において全国平均を下回っていた。中でも「変わり方調べ」と「折れ線グラフと表」に課題がある。 「変わり方調べ」における○や□を使った式の関係性や、「折れ線グラフと表」におけるグラフの目盛りの読み方など、基礎基本的な知識を身に付ける必要がある。 算数全般的において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。授業のねらいにつながる既習内容を確認することで、児童の不安感を軽減し、主体的に自力解決できるようにする。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、ICT等を使って問題を可視化する。例えば、「小数」における文章問題では、数直線や線分図を使ってわかっていることや聞かれていることを整理する。また「面積」や「角の大きさ」の学習では具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。</p> <p>②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、児童に自分の力で解けた実感をもたせられるよう支援する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②学習の振り返りを検証することで、学習に対する意欲や理解の具合を観察し、指導に反映させる。2学期中に概ねの児童がポジティブな振り返りをできるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。</p> <p>②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、児童に自分の力で解けた実感をもたせられるよう支援する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②学習の振り返りを検証することで、学習に対する意欲や理解の具合を観察し、指導に反映させる。2学期中に概ねの児童がポジティブな振り返りをできるようにする。</p>
<p><方策></p> <p>①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。</p> <p>②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、児童に自分の力で解けた実感をもたせられるよう支援する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②学習の振り返りを検証することで、学習に対する意欲や理解の具合を観察し、指導に反映させる。2学期中に概ねの児童がポジティブな振り返りをできるようにする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和6年度学力調査では、「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の領域が全国平均から－14%程度大きく下回っている。また、「電気のはたらき」は－31.8%下回っており、学習内容の定着が見られない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決学習の習慣を図る。ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">具体物を準備して、興味や関心を高めたり、実感を伴った理解を促したりできるようにする。ICT機器を使った学習補充を行って理解を深めさせる。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">問題解決学習を通して、特に予想や考察場面で生活経験や既習事項を根拠に考えられるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。②単元末には学習内容を整理・復習できるようにまとめの学習カード書く時間を確保する。③具体物を調べたり、ICT機器を使って図や写真、動画などを見て調べたりして理解を深められるよう授業の中で活用する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を通年検証し、学習に進んで臨む児童7割以上を目指す。②単元末に学習カードの達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。③ノートやプレテストの進捗や達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・既習の楽典知識、拍感覚の技能、歌唱の技能が十分に定着してない児童が多く見られる。一方で学習内容の発展により個別の楽器を演奏する機会も多く、全体指導が難しくなっている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の力が低く、児童の関心や意欲を生かして学習を進める必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵譜などを用いて曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。 ・一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行う。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 ・ICT 機器及び教材を用いて、自らの学習状況に合わせた学習の仕方を選択できるようにする。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心や意欲を引き出す教材選定を行い、短いフレーズの合奏など達成感を味わえる場面を増やす。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）には ICT 機器も活用し、自分の担当楽器や進度に合わせて学習方法を選択できるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）には ICT 機器も活用し、自分の担当楽器や進度に合わせて学習方法を選択できるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）には ICT 機器も活用し、自分の担当楽器や進度に合わせて学習方法を選択できるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>＜課題＞</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習は、自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。 ・手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。 ・学習した調理を生活の中でも活用できる技能を定着させる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科は今年度からの学習のため、過去の記載はなし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画を活用してまずはわかる工夫をする。 ・ICT機器を活用して、繰り返し復習できるようにする。 ・練習時間を十分にとり、技能の定着を図る。 ・家庭でも実践できる課題を出し、生活の中で工夫して実践できるようにする。 ・話を聞く姿勢、コミュニケーションの取り方が身につくようにし、授業内の活動がよりよくなるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブックで自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用させる。</p> <p>③話を聞く姿勢、友達同士や教員と児童の間のコミュニケーションの取り方を毎時間伝える。掲示物で意識をよリモたせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。児童が、手縫い・ミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。シンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題の確認をする。学習したことを家庭で実践できているか、自分なりの工夫ができているかを確認する。長期休みに課題を出す。8割以上の生徒が家庭で学習を行うことを目標とする。</p> <p>③3月に、1年間の授業の振り返りシートに取り組み、自分の姿勢やコミュニケーションの取り方を振り返る。5割以上の生徒がよくなったと回答することを目標とする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>・</p> <p>・</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知る、する、見る、支える、4つの観点で運動を楽しめるように、各領域において児童が「目的意識」をもって「必要感」を感じて学習していく必要がある。特に、チームでの協力が必要なボール運動領域において、ボールを持っていないときの動き方について、わかって、できる工夫をしていく必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を出して準備運動や整理運動をする。 ・学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。 ・ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りを大切にする。 ・ICT機器を活用し、自分やチームの動きを見える化する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p><方策></p> <p>①ホワイトボードやICT機器を使って、空間認知できるようにする。</p> <p>②準備運動及び感覚づくりの運動を充実させ、できることを増やしていく。</p>	<p><検証方法></p> <p>① チームの課題を見付けたり解決したりするために、使用したいタイミングで使えるように環境を整備する。ネット型、ベースボール型、ゴール型と学習を計画し、年間を通して客観視するメリットを感じられるように、振り返りの時間等に適切な見方を指導していく。</p> <p>② ボール運動の準備運動では、その単元で高めたい基礎的な技能を時間内に取り入れる。また、単元中、帯でその運動を取り入れる。さらに、音楽を使用してリズム感をつけて、心と体をほぐせるようにする。全児童がゲームを成り立たせるうえで最低限必要な技能が身に付くようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>・</p> <p>・</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が50%程いる。・聞き取りや読み取りが苦手な児童が30%程いる。・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が40%程いる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。・スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ICT教材の活用(カフトなど)により復習を繰り返し、既習学習を確実に定着させる。・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①ICT教材の活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を65点に引き上げる。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・教材の内容が実生活とつながっていない児童が3割程度いる。・場面の課題を受けて、自分の考えやよりよい行動が適切に考えて書けない児童が3割程度いる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・教材提示、板書を工夫しながら授業のねらいが視覚的にとらえられるようにする。・「なぜ」「どうして」「自分だったらどうするの」を問答しながら、みんなで考えていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ICT機器やイラストを用意して場面を捉えやすくし、考えられるようにする。・実生活の課題から教材を作ったり、話題を実生活に置き換えたりして学習内容と生活課題を結び付けていく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①人物の態度や表情、周囲の様子などが分かるよう ICT 機器を使ってイラストを提示して注視させることで、場面を捉えやすくし、自分の考えをもてるようにする。</p> <p>②実生活の課題から教材を作ったり、実生活に置き換えたりして課題と結び付け、自分事として考えられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p> <p>②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 総合的な学習の時間〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ウミガメについての知識を知る時間が長く、児童主体の問題解決学習になっていない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。・学習の振り返りを学習ごとに行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・カリキュラムの再編成により、1学期はウミガメについての知識理解を体験を通して行い、2学期をウミガメの生態学習と課題発見、課題解決にバランスよく取り組ませる。3学期に発表する。・意欲を持続させるために、身近なウミガメを更に身近に感じさせるように体験学習の回数を可能な範囲で維持する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①児童が課題を見付けられるように授業を組み立て、課題解決を自主的に行えるように意欲喚起を行う。</p> <p>②体験活動によりウミガメを身近に感じさせ、更に意欲が増すようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p> <p>②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>	